

公益財團法人松下幸之助記念志財團

# 松下政経塾

〒253-0033 神奈川県茅ヶ崎市汐見台5-25

TEL. 0467-85-5811

FAX. 0467-88-4398

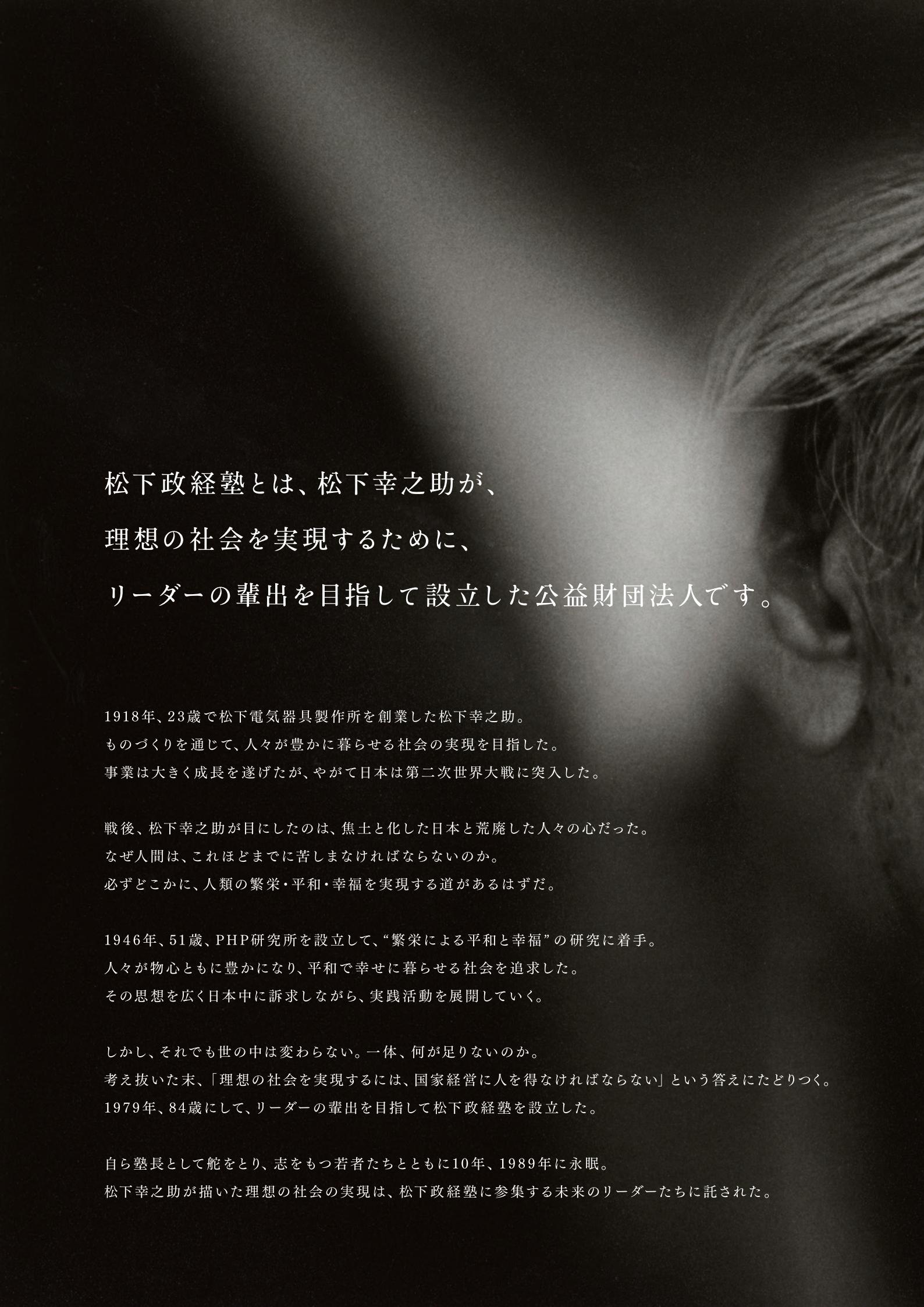
[www.mskj.or.jp](http://www.mskj.or.jp)



# 松下政経塾

THE MATSUSHITA INSTITUTE OF  
GOVERNMENT AND MANAGEMENT

2022



松下政経塾とは、松下幸之助が、  
理想の社会を実現するために、  
リーダーの輩出を目指して設立した公益財団法人です。

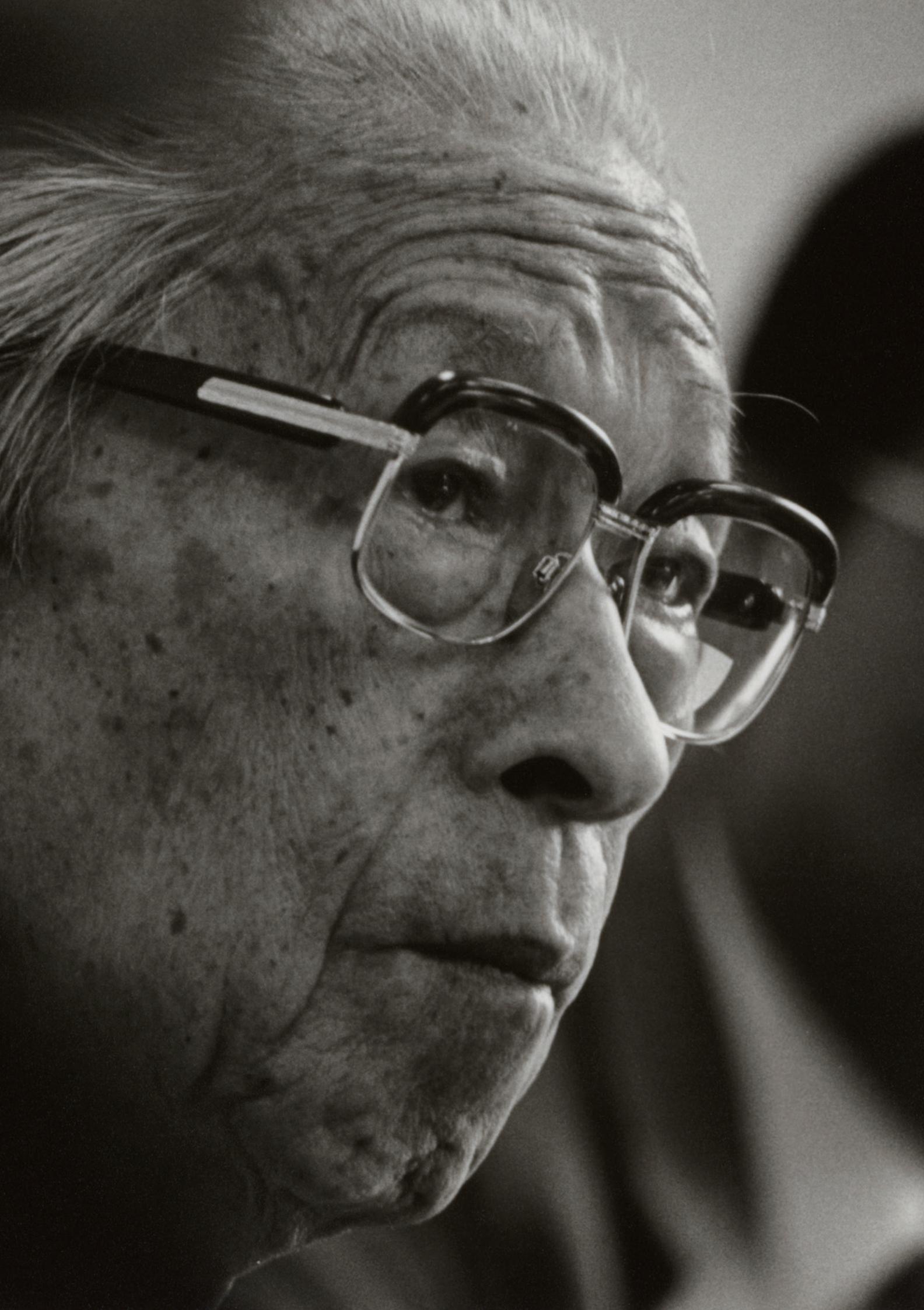
1918年、23歳で松下電気器具製作所を創業した松下幸之助。  
ものづくりを通じて、人々が豊かに暮らせる社会の実現を目指した。  
事業は大きく成長を遂げたが、やがて日本は第二次世界大戦に突入した。

戦後、松下幸之助が目にしたのは、焦土と化した日本と荒廃した人々の心だった。  
なぜ人間は、これほどまでに苦しまなければならないのか。  
必ずどこかに、人類の繁栄・平和・幸福を実現する道があるはずだ。

1946年、51歳、PHP研究所を設立して、“繁栄による平和と幸福”の研究に着手。  
人々が物心ともに豊かになり、平和で幸せに暮らせる社会を追求した。  
その思想を広く日本中に訴求しながら、実践活動を展開していく。

しかし、それでも世の中は変わらない。一体、何が足りないのか。  
考え抜いた末、「理想の社会を実現するには、国家経営に人を得なければならない」という答えにたどりつく。  
1979年、84歳にして、リーダーの輩出を目指して松下政経塾を設立した。

自ら塾長として舵をとり、志をもつ若者たちとともに10年、1989年に永眠。  
松下幸之助が描いた理想の社会の実現は、松下政経塾に参集する未来のリーダーたちに託された。



# 財団法人松下政経塾設立趣意書

---

わが国は戦後、経済を中心として、目をみはるほどの急速な復興発展をとげてきた。そして、今や一面に世界をリードする立場にまでなってきたのである。

しかしながら、日本の現状は、まだまだ決して理想的な姿に近づきつつあるとは考えられない。経済面においては、円高をはじめ、食糧やエネルギーの長期安定確保の問題など国際的視野をもって解決すべき幾多の難問に直面し、また、社会生活面においては、青少年の非行の増加をはじめ、潤いのある人間関係や生きがいの喪失、思想や道義道徳の混迷など物的繁栄の裏側では、かえって国民の精神は混乱に陥りつつあるのではないかとの指摘もなされている。これらの原因は個々にはいろいろあるが、帰するところ、国家の未来を開く長期的展望にいささか欠けるものがあるのではないかろうか。

そのような正しく明確な基本理念があれば、そこから力強い政治が生まれ、その上に国民の経済活動、社会生活も安心して営むことができ、ひいては国民の平和、幸福、国家の安定、発展ももたらされるのである。従って、今日の国の姿をよりよきものに高め、すすんでは国家百年の安泰をはかっていくためには、国家国民の物心一如の真の繁栄をめざす基本理念を探求していくことが何よりも大切であると考える。

同時に、そのような立派な基本理念が確立されても、それを力強く具現していく為政者をはじめ各界の指導者に人を得なければ、これはなきにひとしいのである。幸いにして、天然資源には恵まれぬわが国ながら、人材資源はまことに質の高い豊かなものがある。まさに人材、とりわけ将来の指導者たりうる逸材の開発と育成こそ、多くの難題を有するわが国にとって、緊急にしてかつ重要な課題であるといえよう。

私たちは、このような観点から、真に国家を愛し、二十一世紀の日本をよくしていこうとする有為の青年を募り、彼らに研修の場を提供し、各種の適切な研修を実施するとともに、必要な調査、研究、啓蒙活動を行う松下政経塾の設立を決意した。この政経塾においては、有為の青年たちが、人間とは何か、天地自然の理とは何か、日本の伝統精神とは何かなど、基本的な命題を考察、研究し、国家の経営理念やビジョンを探求しつつ、実社会生活の体験研修を通じて政治、経済、教育をはじめ、もちろんの社会活動はいかにあるべきかを、幅広く総合的に自得し、強い信念と責任感、力強い実行力、国際的な視野を体得するまで育成したいと考える。

私たちは、この研修によって正しい社会良識と必要な理念、ならびに経営の要諦を体得した青年が、将来、為政者として、あるいは企業経営者など各界の指導者として、日本を背負っていくとき、そこに真の繁栄、平和、幸福への力強い道がひらけてくるとともに、世界各国に対しても、貢献することができるものと確信するものである。

このような松下政経塾が、広く国家国民の期待に十分応え、積極的かつ恒常に活動していくためにも、公共的機関として運営推進するのが肝要と思う。よってここに、財団法人 松下政経塾の設立を発起する次第である。

昭和54年1月22日

## 塾 是

真に國家と國民を愛し  
新しい人間觀に基づく  
政治・經營の理念を探求し  
人類の繁榮幸福と  
世界の平和に貢献しよう

## 塾 訓

素直な心で衆知を集め  
自修自得で事の本質を究め  
日に新たな生成發展の  
道を求めよう

## 五 誓

### 一、素志貫徹の事

常に志を抱きつつ懸命に為すべきを  
為すならばいかなる困難に出会うとも  
道は必ず開けてくる。成功的要諦は  
成功するまで続けるところにある。

### 二、自主自立の事

他を頼り人をあてにしていては事は  
進まない。自らの力で、自らの足で  
歩いてこそ他の共鳴も得られ、知恵も  
力も集まって良き成果がもたらされる。

### 三、万事研修の事

見るもの聞くことすべてに学び、一切の  
体験を研修と受けとめて勤しむ  
ところに真的向上がある。心して  
見れば、万物ごとごく我が師となる。

### 四、先駆開拓の事

既成にどらわれず、たえず創造を開拓  
していく姿に、日本と世界の未来がある。  
時代に先がけて進む者こそ、新たな  
歴史の扉を開くものである。

### 五、感謝協力の事

いかなる人材が集うとも、和がなければ  
成果は得られない。常に感謝の心を  
抱いて互いに協力しあってこそ、信頼が  
培われ、眞の發展も生まれてくる。



松下政経塾 初代塾長

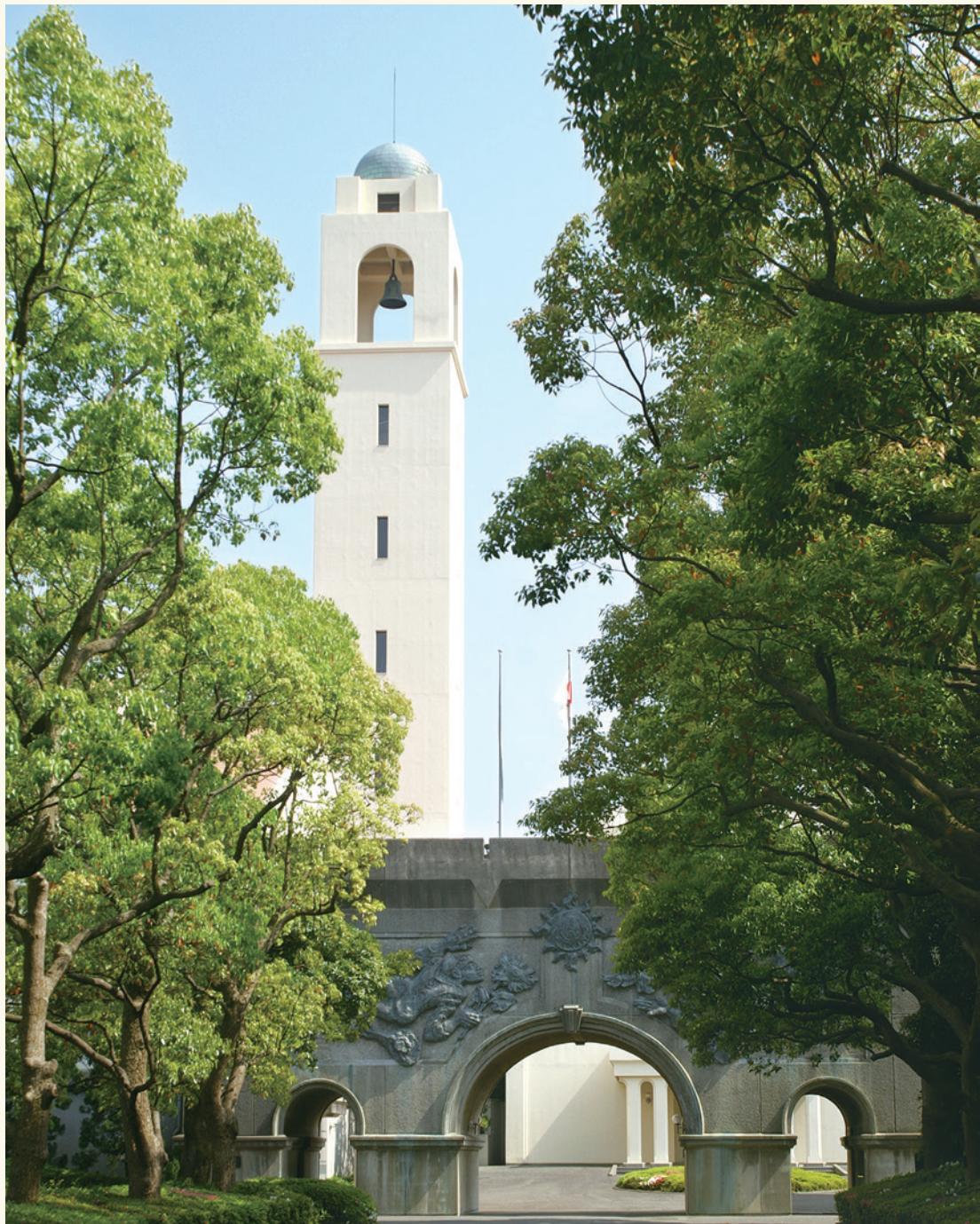
松下 幸之助

## それを、諸君、やろうじゃないか。

政経塾をやろうと志したのは、今から10年前です。相談した方からも反対され、一度は断念しましたが、一向に好ましい状態に進んでおらない。ますます日本も世界も混迷している。自分が40年ほど若返ることができるなら、自分で世直しの先頭に立ちたいとさえ思いました。「やろう」「やめよう」と思い続けました。しかし、歳をとってからでは叶いません。それで、自分に代わって若い諸君に未来を託したいとあらためて松下政経塾の設立を決めたのです。「この塾の方針にかなった人が一名でもいれば開塾するのだ」と志を立てたのです。

政経塾の使命は塾是・塾訓にあるが如き仕事をすることです。つまり、国家百年の計を創り、実践し、日本を救い、世界を救い、人々の幸福に尽くすことです。塾生は身命を賭して、この使命に徹しきって欲しいと思います。使命は重大です。「それを、諸君、やろうじゃないか」というのが、私から皆さんへの呼びかけです。

〈昭和55年春 入塾式と当時の講話より 当時85才〉



# ご挨拶



## 新たなシナジーを目指して

祖父 松下幸之助は、94年の生涯においてパナソニックの創業、P H P研究所や松下政経塾の創立に加えて、社会の発展に資する多くの財團を設立してまいりました。

2019年、「松下政経塾」と「松下幸之助記念財団」を合併し、新たに『公益財團法人松下幸之助記念志財団』を発足させて頂きました。

「松下政経塾」では、設立以来40年以上、有為な青年に研修の場を提供し、将来各界の指導者となりうる人財の育成に取り組んできました。一方「松下幸之助記念財団」では、我が国と諸外国との国際相互理解の増進とこれに資する国際人の育成、及び人間が自然を尊び調和しながら生きる共生社会の実現に貢献された方々への顕彰活動を進めてまいりました。

公益財團法人松下幸之助記念志財団  
理事長

松下 正幸

これら二つの財団は、松下幸之助の願いでもあります『人類の繁栄、幸福と世界の平和の実現』という共通理念を有し、共に人財育成に取り組んでまいりました。

合併を機に両財団を巣立ち研究成果を上げてきた「人的資源」、ご指導を賜ってきた多くの先生方や役員の皆様の「ご見識」、長年培ってきた「経営ノウハウ」等を相互に交流し、シナジーを高めつつ、更に積極的に初期の目的達成の為に取り組んでまいります。

今後ともよろしくご指導ご支援賜りますようお願い申し上げます。

## 建塾の理念を受け継ぎ、長期的展望を描くリーダーの育成を

松下政経塾はパナソニック株式会社(旧:松下電器産業株式会社)の創業者である松下幸之助が1979年に創立した私塾です。

その目的は塾は示されているように「国家の政治・経営の理念を探求」し「人類の繁栄幸福と世界平和に貢献」することです。

以来43年を経た現在、まだまだその使命達成には道半ばというのが現状だと思います。この間、294名の卒塾生が政治・経営・学術などの分野で日夜精一杯の活動を続けそれぞれの「志」の成就に向けて努力をしています。

松下政経塾の使命は、卒塾生に継き塾生全員が国家の経営理念・ビジョンを探求しながら力強く実践活動を行うことです。そのためには高い志を持ち、強い信念と責任感を持つ有為の若者たちに研修の場を提供し、切磋琢磨による成長を促します。

世界中で新型コロナウィルスが猛威を振るい、米中のデカップリングが進行し、格差はますます拡大する現在、各国のリーダー、企業トップなどにはポピュリズムを排した眞のリーダーシップが求められています。松下政経塾では「自修自得」「現地現場」を基本に40年間の蓄積をもとに、リーダーシップの探究に注力していきます。

「地域経営」「国家経営」「SDGsのその先に」…  
道なき道を切り拓く「志」をもっている皆さん。是非、勇気と熱意を持って松下政経塾に飛び込んできてください。  
私たちも待っています。



公益財團法人松下幸之助記念志財団  
松下政経塾 塾長

遠山 敬史

# 求める人材

松下幸之助の求めた建塾の趣意を深く理解し、  
自らの手で理想の日本と世界を創り出す強い信念と高い志を有する人材



“素直な心とは、私心なく、くもりのない心、とらわれない心”

## 応募資格

【年齢】 22歳～38歳

## 年限・待遇

【年限】 原則4年

※2年目修了以降、審査を経たうえで  
卒塾の時期を自身で選択することができます。

【資金】 松下幸之助の理念に基づき、  
研修・研究に必要な資金を提供します。

研修1・2年目：約300万円／年間  
研修3・4年目：約500万円／年間

【住居】 全寮制(松下政経塾敷地内)

松下政経塾は、建塾の理念に共鳴する有為の人材に対して、  
国家百年の大計をつくり、実践者になるための「場」を提供します。

### 研修目的

#### 国家百年の大計をつくる

国家国民の物心一如の眞の繁栄をめざす基本理念を探求し、  
國家の未来を開く長期的展望となるビジョンをつくる。

#### 実践者になる

強い信念と責任感、力強い実行力、国際的な視野などを幅広く  
総合的に体得して、ビジョンを具現する実践者になる。

### 研修方針

## 「自分でつかむ研修」

国家百年の大計をつくり、実践者になるための要諦は、人から教えられて身につくものではない。

松下政経塾では、「自分でつかむ」ことを研修理念とする。そのため、常勤の講師は存在しない。

師をもたずして師となった剣聖・宮本武蔵の如く、

自分で要諦をつかみながら、国家百年の大計をつくり、実践者になる。



#### 自修自得

新しい時代を創造する指導者は、自ら進むべき道を知り、開拓していくなければならない。自分が学ぶべきことを明確化し、そのために為すべきことを自ら考えて行動する中で、事の本質は初めて体得される。そのため、松下政経塾では常勤の講師をおかず、塾生自らが主体的に研修を組み立てて実践する。

#### 現地現場主義

あらゆる問題を解決して時代を切り拓く指導者は、現地現場に身を置いて問題の本質を見極めなければならない。常に当事者の立場となって、問題の核心は何か、いかにして解決すべきかを探る必要がある。ゆえに、松下政経塾の研修では、何事も現地現場における実体験に基づきながら考へて行動することを基本とする。

#### 徳知体三位一体

時代を牽引する指導者には、豊かな感性と深い洞察力に基づく幅広い知見とともに、力強く物事を実行していくための健全な肉体が求められる。しかし、すべての前提となるものは、真に人々の幸せを願って行動する人間性である。よって、松下政経塾では、德育に重点を置きながら知育・体育を行う徳知体三位一体の研修を行う。



## 〈研修概要〉

# 基礎課程

## ビジョンをつくる

### 塾主理念研修

松下幸之助塾主の  
理念研究を行い、  
人間観や国家観を涵養する



#### 塾主研究

松下幸之助塾主の理念を学ぶ



#### 関西研修

松下幸之助塾主ゆかりの地を訪ねる



#### 経営実習

販売店実習等を通じて経営を学ぶ

### リベラルアーツ

歴史・哲学を中心に、  
リベラルアーツを修得する

橋爪 大三郎	政治思想史 社会学者、東京工業大学 名誉教授
北川 正恭	地方自治 早稲田大学マニフェスト研究所 顧問
小林 節	憲法 慶應義塾大学 名誉教授
中溝 泉	外交・国際協力 国際連合事務次長
渡部 恒雄	外交・安全保障 公益財団法人笠川平和財団 上席研究員
下井 直毅	経済財政・社会保障 多摩大学経営情報学部 教授
川上 和久	政治とメディア 麗澤大学 教授
小玉 重夫	教育学 東京大学教育学部・大学院教育学研究科長
渡辺 利夫	近現代史 拓殖大学 顧問
山下 泰裕	リーダーシップ 日本オリンピック委員会 会長、東海大学 副学長、全日本柔道連盟 会長
増田 寛也	公共経営 日本郵政株式会社 取締役・代表執行役社長
古賀 伸明	労働問題 公益財団法人連合総生活開発研究所 理事長
青野 延久	働き方改革 サイボウズ株式会社 代表取締役社長
落合 陽一	テクノロジーと文化 メディアアーティスト
茂木 健一郎	脳と心 脳科学者
佐藤 悅二郎	松下幸之助研究 株式会社PHP研究所 客員
千 宗室	日本の伝統精神(茶道) 裏千家第16代家元
幸野 實	日本の伝統精神(剣道) 神奈川県剣道連盟 副会長・理事長
瀬川 公利	日本の伝統精神(書道) 書家

### 国家基本課題研究

国家の基本課題について、  
座学と現場の両面から学ぶ



#### 国家基本課題講座

国家課題の論点を第一人者と講論し、  
自身の判断軸をつくる



#### 現地現場研修

国家課題の現場で人々と交わり実相をつかむ



#### 共同研究

塾生が参集して様々なテーマについて討議する

### 講師は各界の実践者

松下政経塾は「自修自得」の研修方針のもと、創立以来、常勤の講師を置かず、研修を進めています。  
そのため、各種の講義では、様々な分野でご活躍の方々に幅広く登壇をいただいている。



# 塾生同士で切磋琢磨しながら、ビジョンをつくりリーダーとして研鑽する

国家の長期的展望は如何にあるべきか、国家を経営する指導者に必要な資質とは何か。

全寮制のもとで互いに切磋琢磨しながら自問自答を繰り返し、理想社会のビジョンに基づく実践者になるための志を固めていきます。

## 経営の要諦を学びリーダーとして研鑽する

### 政治行政研修

国家経営・地域経営の現場に身を置いて、公共経営を学ぶ



国政現場研修  
国会で政治家の活動を学ぶ

### 経営実践研修

民間の事業経営に参画し、経営の要諦を学ぶ



企業経営現場研修  
企業経営者のもとで経営を体感する

### 人間修養

理想社会を具現化する実践者に相応しい人格を備えるための修養を行う



早朝研修  
毎朝、全員で体操・掃除・ジョギングを行う



地方議会研修  
地方自治を担う議員の活動を学ぶ



社会起業経営研修  
自らプロジェクトを運営し、経営を体感する



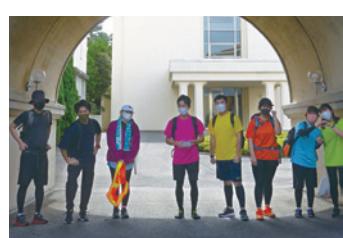
日本伝統精神研修  
日本の伝統精神を通じて自己を見つめる



海外議会インターン研修  
諸外国の政府や議会で外交を学ぶ



海外NPOインターン研修  
諸外国の非営利組織で経営を体感する



100km研修  
24時間の100km歩行で心身の限界に挑む

### 一日の研修スケジュール

松下政経塾の一日は、体操・掃除・ジョギングを行う早朝研修から始まります。朝食後に朝会に臨み、一日の活動を確認して夕方まで研修を行います。なお、夕食後の時間は各自の研究・実践活動に充てられています。



塾内外の清掃



朝会での所感発表



食堂の様子

〈研修概要〉

## 実践課程

現地現場で実践活動

### 国家経営

城井 崇  
〈第19期〉  
1998年入塾

研修テーマ



日本の安全保障の現場を歩く



自衛隊に体験入隊  
30か所以上の自衛隊基地を自ら訪問



米軍基地跡地利用研究チームに参加、  
NIRAの政策提言を作成



カナダにて米国との同盟の在り方を研究  
多くの仲間に恵まれる

### 地域経営

松下 玲子  
〈第25期〉  
2004年入塾

研修テーマ



一人ひとりがいきいきと働く社会



企業経営における重要課題  
「人材の開発・育成」について学ぶ



営林実習の現場で植林・伐採を経験



働きたいのに働くことが出来ない  
人への就業支援について研究

杉島 理一郎  
〈第31期〉  
2010年入塾

研修テーマ



地域教育による共同体の再構築



地域で子どもを育てる  
地域教育を現地現場で推進



地域における食育について  
農業研修を通じて考える



米国国務省の招聘プログラムで  
「日米同盟の強化」を研究

### 社会起業

山本 将  
〈第35期〉  
2014年入塾

研修テーマ



貧困の連鎖を断ち切る具体的方策の探究



西淀川子どもセンターにて  
スタッフ業務(学習支援)



大阪府箕面市での子どもの  
貧困対策プロジェクトを推進



みのお拠点の子どもたちに  
毎夕食を提供し食卓を囲む

津曲 陽子  
〈第37期〉  
2016年入塾

研修テーマ



地域の国際化による発展の可能性



長野県庁におけるインターンシップにて  
地域の国際化の現状や幅広さを学ぶ



イタリアの先進地域を訪問し、  
観光立国について探求する



デンマークを訪れ、  
地域社会のあり方について調査研究する

# 実践者として、現地現場でプロジェクトに取り組む

個別テーマに基づく研究・実践活動を展開しながら、ビジョンの具現化に取り組みます。

フォーラム開催等を通じて活動成果を広く社会に発信するとともに、各自の活動が厳しく問われる審査会に臨みます。

## 情報発信活動

卒塾論集やフォーラム等を通じて、実践活動の成果を社会に発信する



## 審査会

毎年、外部の審査員を招聘し、塾内で活動成果のレビューを行う



2022年4月現在

### 衆議院議員 城井 崇

福岡県北九州市出身。元文部科学大臣政務官。日本の公教育再生に取り組み、大学入試改革に尽力している。



卒 塾



東京都武蔵野市長  
松下 玲子



卒 塾



埼玉県入間市長  
杉島 理一郎

行政改革と未来産業構想を通じて、自治体経営の舵取りを担う。塾生時代の被災地経験が転機となって故郷の地域づくりに生涯をかけて取り組んでいる。



卒 塾



NPO法人トイボックス  
箕面事業部マネージャー

山本 将

子ども達の“生き抜く力”を育み、貧困の連鎖を断ち切るためのプロジェクトを推進している。



卒 塾



NPO法人  
「日本で最も美しい村」連合  
事務局長

津曲 陽子

地域の魅力がいつまでも輝く未来を目指し、ブランド価値を高める活動や発信に取り組んでいる。



卒 塾

# 松下政経塾の卒塾生から未来のリーダーたちへ



逢沢 一郎 〈第1期〉

衆議院議員

松下幸之助塾主が、今の日本を見たら、何と言うでしょうか。「あんたら何やつとんや。もっとしっかりせんとあかんやないか。」そんな声が聞こえています。日本をよい国にする。みんなで頑張ろうではありませんか。



本間 正人 〈第3期〉

京都芸術大学 教授

学習する地球社会(Learning Planet)のビジョン構築が、私のライフワーク。政経塾での体験を元に、教育を超える「学習学」を提唱しています。個人、組織、地域の可能性を引き出し、世界一創造的な国・日本を創りましょう！



鈴木 康友 〈第1期〉

静岡県浜松市長

「住民に最も身近な基礎自治体が、素晴らしい都市経営を行えば、必ず国もよくなる」。そんな思いで日々市政運営に取り組んでいます。高い志と自ら人生を切り開く強い信念を持った有為な人材が、繰々と巣立つことを期待します。



前田 正子 〈第3期〉

甲南大学マネジメント創造学部 教授

日本は、世界のどこも経験したことのない少子高齢化と人口減少の波を乗り越えていかなくてはなりません。様々な分野で新しい知恵や仕組みが求められます。皆さんのがすべきことは、山積みかもしれません。



野田 佳彦 〈第1期〉

衆議院議員

私は、塾生はある「眞に国家と国民を愛し」という言葉を胸に行動してきました。これからも松下塾主の描いた理想的の日本に近づけるよう「正心誠意」力を尽くしていく決意です。志を同じくする未来の塾生を歓迎します。



松沢 成文 〈第3期〉

前神奈川県知事  
前参議院議員

松下政経塾は、国家国民のために何を成すべきかを問い合わせ、突き詰め、志を確立するための道場です。リーダーシップとチームワークを合わせもち、活力が生まれる強い組織をつくる。そのための修業に挑戦してみませんか。



橋川 史宏 〈第1期〉

株式会社伊勢福(おかげ横丁) 相談役

塾生が学ぶべきことの一つは、政治、経済の中にも確かに真理が存在することと、それを現場で探求し続ける胆力を練ることの大切さです。これを信じられる人こそ、松下政経塾の期待する指導者なのだと、私は思います。



原口 一博 〈第4期〉

衆議院議員

この人と3分話せば自分も何か社会のために力を出せるのではないか。そう思われるような力。太陽の光のような暖かく力強い力。それが松下幸之助さんでした。私達は志を継ぐ者。引き出す力を継ぐ者です。志一つ持參のこと。さあ、一步踏み出しましょう。日本の繁栄と世界の平和の為に。



横尾 俊彦 〈第1期〉

佐賀県多久市長

市長職に奔走しつつ、政府審議会の委員も務めています。現場だからわかる課題、市民が希求する未来を原点に行動します。前例なき行政創造にも挑みます。首長はCEO(最高経営責任者)です。あなたも是非挑戦を。



毛利 勝彦 〈第4期〉

国際基督教大学 教授

1970年代危機のさなか21世紀日本の夢から逆照射してこの塾は創られた。いま世界は2030年に向けたグローバル目標をムーンショットとして動いている。人類が地球環境を変えてしまった時代に、繁栄と幸福と平和をどう実現するか。新しい被投的投企はもう始まっている。あとはチームづくりだ。



神藏 孝之 〈第2期〉

イマジニア株式会社 取締役会長 ファウンダー

松下幸之助が目指した人材育成とは「商売のわかる政治家・役人を創る」「人間の器量を磨く」ことではないか。グローバル化や少子高齢化など時代環境が激変する中で、経営マインドと人間力こそがリーダーの不可欠な要件だと思う。



伊藤 達也 〈第5期〉

衆議院議員

知恵なき政治の末路が増税だという塾主の思いを原点に、国家経営のあり方について後輩塾生たちと真剣に議論を重ねてきました。志を同じくし、塾主の描いた社会の実現に挑戦する若い方々の活躍を期待しています。



## 高市 早苗 〈第5期〉

衆議院議員

在塾中に得たものは、今も日々の政策判断や行動に際して「物差し」としている確固たる価値観です。入塾される皆様、松下幸之助研究を極めてください。自らの使命への力強い信念が生まれ、行動規範が定まります。



## 竹内 美紀 〈第8期〉

東洋大学文学部 准教授

松下政経塾には人生を豊かにしてくれる出会いがあります。尊敬する師や生涯の友、人生の岐路で支えとなる書物と出会い、志を問われ続ける中で、ぶれない自分を育てる。挑戦する人生を送りたい人のための研鑽の場です。



## 田辺 信宏 〈第6期〉

静岡県静岡市長

「未来へ向けて、自分が思った以上の自分にはならない。」塾生時代、こう諭されたことがある。確かにその通りだった。是非とも高く堅い志の下、目指すべき自分と社会の姿を思い描き、千里の道を一日一日大切に歩んでいって欲しいと願う。



## 前原 誠司 〈第8期〉

衆議院議員

塾主が生きておられたら、我々は大いに叱られるだろう。「これだけ塾出身の議員や首長がいながら、日本の今の状況は何だ」と。まだまだやらねばならないことが沢山ある。この国を何とかしたいと思う志ある仲間を求む。



## 奈良 俊幸 〈第6期〉

前福井県越前市長

平成17年の市長就任以来、「現地現場主義」をモットーに、「自立」と「協働」のまちづくりを進めています。「地方が元気にならなければ、日本の発展はない」と信じ、地方の活性化に取り組む同志を求めています。



## 加藤 政徳 〈第9期〉

人の森株式会社 代表取締役社長

人生は短いものです。「いつか」と思っているうちに、50代、60代となってしまいます。たった一度の人生です。世のため、人のため、「お役に立ちたい」という思いがあるのであれば、今すぐ松下政経塾の門を叩いてください



## 清水 勇人 〈第7期〉

埼玉県さいたま市長

座右の銘は、素志貫徹。志は、地球上から戦争と飢餓をなくすこと。活動領域は国際から地方自治に変わっても、塾で学んだ、今も変わらない私の原点。さあ志を持って、松下政経塾の門を叩いてください。未来を拓くのは皆さんです。



## 桑畠 健也 〈第9期〉

農研機構本部 NARO開発戦略センター 主席研究員

松下幸之助は、人間はどういうものかを、この塾でしっかりと掘んでくれ、と。人間はもっと深い存在なんだ。まだその本来の能力を發揮していないだけだ。つくづくそう思う方はぜひ塾の門を叩かれんことを期待します。一緒に世界を変えましょう。



## 中原 好治 〈第7期〉

広島県議会議員

人生において、必要なお金と自由な時間がある時期というのはそうではありません。政経塾で過ごす数年間というのはまさにそういう時期で、自分の頭で考え、動き、貴重な出会いを重ねながら「志と覚悟」を固めていく場だと思っています。



## 本多 平直 〈第9期〉

前衆議院議員

塾生時代、「世界平和」を叫んでいた自分ですが、日本の政治さえ変えられずもがいています。現実直視は当前の前提ですが、理想なき現実主義は単なる迎合です。世界と日本の平和を熱く語れる仲間を待っています。



## 玄葉 光一郎 〈第8期〉

衆議院議員

今、日本は歴史的分水嶺を迎えてます。我々の行く手にはいくつもの困難が立ちはだかっています。しかし、「ピンチはチャンス」。松下幸之助塾主の教えを胸に、一緒に眼前的の課題を乗り越えて行きましょう。



## 加藤 芳洋 〈第10期〉

米国弁護士

外を見る。外を知る。日本は世界とどう向き合うか。海外に出たから見えるものも、できることもある。外交でも貿易でも教育・文化でも、政経塾から世界に出ていく。ソウイウモノになりたい人も建塾の理念に適うと信じています。



坂井 学 〈第10期〉

衆議院議員

様々な行動計画策定に関しては、どこまで見通しの範囲までを考慮に入れるかが大事です。目の現象・利益に影響されがちな私たちにとっては松下幸之助塾主が言われる「素直な心」が大きな力になると思います。



藤澤 利枝 〈第14期〉

社会福祉法人ユーアイ村 理事長  
株式会社ユーアイデザイン 取締役

ユーアイには、保育園があり、特養があり、障害者の施設があり、高齢者も働いているし、障害者も働いています。「まるっとユーアイ」と名付けています。多様性あるインクルージョンな社会の実現を共にめざしましょう。



小野寺 五典 〈第11期〉

衆議院議員

我が国を取り巻く安全保障環境は戦後、最も厳しいと言っても過言ではありません。また、私の故郷、宮城県は東日本大震災からの復興の道半ばです。元防衛大臣・被災地出身の議員として、常に塾は・塾訓、そして「万事研修」「素直な心」の教えを忘れずに不退転の覚悟で取り組んで参りました。松下政経塾で多くを学び、同志として活躍していただけるよう、ご期待いたします。



横江 公美 〈第15期〉

東洋大学国際学部 教授

政経塾の5年間で私の人生は変わりました。政経塾は最後までやり通すこと努力は裏切らないことを学ぶ場所です。そして、何かあった時に相談する一番の仲間もできます。新しい仲間を楽しみにしています。



福山 哲郎 〈第11期〉

参議院議員

この塾には未来の成功を約束するチケットはありません。あるのは「自修自得」するための時間と空間へのチケットだけです。それでも自らの志を持って、新しい道を切り拓く、そんな気概の新しい仲間を歓迎します。



白井 智子 〈第16期〉

NPO法人新公益連盟 代表理事

政経塾の現地現場主義に導かれて国内外の学校現場に飛び込み、不登校の子どもの支援という仕事に出会いました。学校をつくり、新しい法律もできました。誰も取りこぼさない教育をつくるために。今もずっと、政経塾の仲間との繋がりに支えられ続けています。



村井 嘉浩 〈第13期〉

宮城県知事

松下政経塾は、志がありそれを具現化する計画性とその計画を実行するだけの能力はあるがそれを生かす土壤のない者に、土(研修の機会)と肥料(松下幸之助塾主の思想哲学)を与えてくれる所です。有為な人材を待っています!



尾関 健治 〈第17期〉

岐阜県関市長

「志のみ持參」の言葉通り、「故郷関市のために尽くす」という素志以外、何も持たず何者でもなかった23歳の入塾時。政経塾での4年間、志に向かってまっすぐに進む決意と覚悟を持たせてもらいました。



渡辺 猛之 〈第13期〉

参議院議員

長い人生において、自分の志に正面から向き合い、その達成に必要な力をつけるための十分な時間と機会を与えてくれる場所というのは、そうそうあるわけではありません。その場と友が、松下政経塾にはあるはずです。



高野 靖子 〈第17期〉

東京大学大学院法学政治学研究科 助手・留学生担当

政経塾のおかげで、自分の天職と巡り会い留学生受け入れの仕事を20年続けています。日本のよき理解者、相互理解の礎となる人材が一人でも多く育つよう尽力しています。真に平和に貢献したいと思う仲間を待っています。



藤崎 育子 〈第14期〉

開善塾教育相談研究所 所長

塾生時代、現地現場の研修で、ひきこもる青少年の家庭や学校に出向く訪問相談という仕事に出会いました。今で言うアウトリーチです。いじめや不登校といった問題を減らし、子どもにとっても、先生にとっても「楽校」となるような仕事をしたいと思っています。



金子 将史 〈第19期〉

株式会社PHP研究所 取締役執行役員  
政策シンクタンクPHP総研 代表・研究主幹

今を生きる私たちは国家や社会、人間のあり方を問いかねばならない。歴史的な機会に立ち会っています。先人から受け継いだものを世界の舞台で飛躍させる、新しい感性と強い志をもつたちは、ぜひ政経塾を目指してください。



**島川 崇** 〈第19期〉

神奈川大学国際日本学部 教授

いつの間にか、言いたいことが言えないこんな世の中になってしまった。もう一度誰もが自分の意見を自由に表明できる世の中にするところに、これからの松下政経塾の使命があると、私は最後の期待を塾に託したい。



**坂野 真理** 〈第26期〉

虹の森クリニック院長 児童精神科医

「良い社会」とは何か。自分はそのために何ができるのか。政経塾ではその問いに応えるための「志」を考え抜く機会と仲間を得ることができます。あなたの思いを社会を変える力とするために、ぜひ政経塾の門を叩いて下さい。



**白岩 正三** 〈第22期〉

大阪府豊中市議会議員

生きづらさを感じる世の中になりました。多様な価値観が交錯する中で、めざすべき社会像を示すのは至難の業です。人間とは何かに真正面から向き合い、平和と幸福の実現に地道に歩み続けることができるリーダーが必要です。



**熊谷 大** 〈第28期〉

宮城県利府町長

自治体のトップとして「東北を豊かに」を素志に、行政に取り組んでいます。松下政経塾では志を磨く時間と併せて、自分の「人生のテーマは何か」をよく考えました。皆さん、互いに明日の日本のために頑張りましょう！



**三日月 大造** 〈第23期〉

滋賀県知事

「全人類の幸せ」のために…1980年、松下幸之助塾主は、政経塾の真のねらい、究極の目標は、全人類の幸せということに挑戦し、達成すること、と述べられた。「一朝一夕にはできない」「でき易いところはもう皆済んでいる」とも。のために、一緒に、歩みを始めませんか？



**大谷 明** 〈第29期〉

茨城県ひたちなか市長

「不易流行」。変えてはいけないものと、時代や環境に合わせ変えなければならないもの。その見極めは難しい。様々な出来事に対して判断を求められた時、判断の座標軸がないと流されてしまう。その軸を定める時間を過ごしてもらいたい。



**谷中 修吾** 〈第24期〉

ビジネスプロデューサー  
BBT大学 グローバル経営学科長・教授

社会起業を手がけていたとき、親しい方から、偶然、松下政経塾を勧められました。初めて塾のサイトを見て、松下幸之助塾主の想いの詰まった設立趣意書に感銘を受けたことが全ての始まりです。ご縁が導く世界へようこそ。



**富岡 慎一** 〈第29期〉

WHOコンサルタント・広島大学 客員准教授・内科医師

政経塾で過ごした3年は人生で最もかけがえのない時間でした。今も変わらず超高齢社会における医療福祉の在り方を探求しています。一生崩れない志の塔を建てる場所、それが政経塾。志のある人に、人はついていくからです。



**兼頭 一司** 〈第26期〉

株式会社空と海 代表取締役  
海賊の学校 キャブテン

リーダーシップも、変革も形は一つじゃない。その常識を打ちやぶれ。その困難を超えてゆけ。世界はもっと面白くなれる。ぼくらはもっと幸せになれる。ワクワクしよう。



**内田 直志** 〈第31期〉

前福岡県みやこ町議会議員

在塾中もっとも意識したことは「人間の把握」つまり人間を学ぶことでした。塾主の警咳に接することはできなくて、講話録やご生前を知る方々を通じて塾主と向き合い続けた三年間。同行二人で志す道を歩める今に感謝しています。



**源馬 謙太郎** 〈第26期〉

衆議院議員

卒塾してから2度の落選、5年間の浪人を経験しました。心が折れそうな時もありましたが、志が失われない限り前に進もうと思えたのは塾主の「大忍」の教えと、全国で同じように戦っている同志の存在でした。政経塾は必ず大きな財産になります。



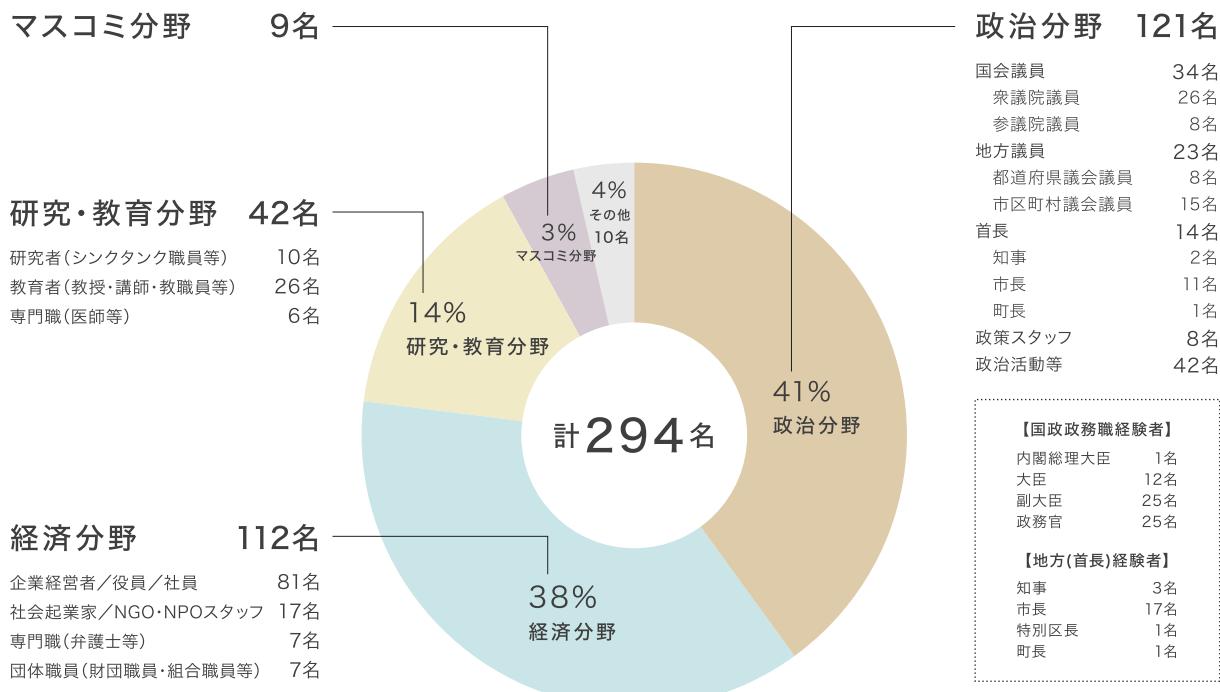
**丸山 哲平** 〈第32期〉

東京都国分寺市議会議員

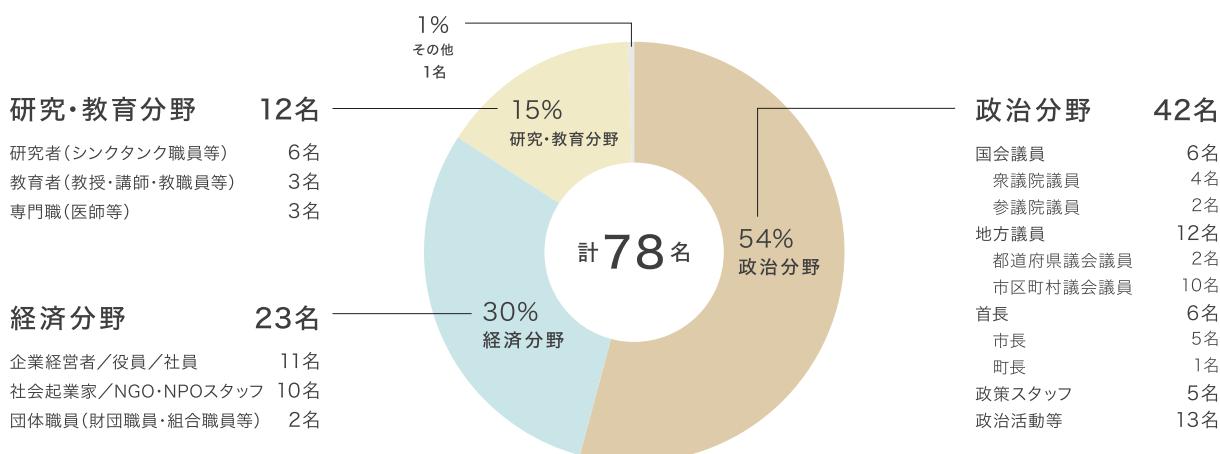
変化の時代こそ人間や物事に根本から向き合い、悩み、そして答えを持つことが必要です。政経塾で現地現場を通じ学んだ松下塾主の思想哲学は「軸」として実感をもって私を支えています。皆さん、の志に応えるものがここにはあります。一緒に未来を拓きましょう。

# 卒塾生の進路

松下政経塾の卒塾生は、政治家、企業経営者、社会起業家、教育者、研究者など、様々な立場で各界に活躍の場を広げています。それぞれの志の実現に至る道は、松下政経塾を卒塾した後も、生涯にわたって続いていきます。



最近の卒塾生の進路（25期生～39期生）



2022年4月1日現在



## 塾生プロフィール

### 40期生



小林 祐太

(こばやし ゆうた)

1996年10月25日

研究・実践テーマ

全ての人がその能力を活かすこと  
のできる共創社会の実現

神奈川県横須賀市出身。立命館大学政策科学部卒業。在学中に故郷・横須賀が著しい転出超過に直面している現状を知る。入塾後、人口減少時代における郊外都市の在り方、少ない人口にあっても仕事や生活において一人ひとりが輝くことのできる街の実現について研究・実践している。

中山 真珠

(なかやま しんじゅ)

1995年4月16日

研究・実践テーマ

子ども・子育て世代を包摂する  
社会の実現

大阪府大阪市出身。神戸市外国语大学卒業。(公財)子どもの貧困対策センターあすのば学生理事として活動する中で、ひとり親を中心とした子育て世代の社会的孤立に強い課題意識を抱く。入塾後、ジェンダーの観点から子育て支援の在り方を模索し、調査研究に取り組んでいる。

### 41期生



坂田 健太

(さかた けんた)

1991年12月11日

研究・実践テーマ

持続可能な地域づくりに資する  
自治体経営の確立

埼玉県さいたま市出身。青山学院大学法学部卒業後、神奈川県庁に入庁。社会構造の変化に伴い、様々な課題が山積する地方自治体において、その組織の在り方に危機感を覚える。持続可能な地域づくりに資する自治体経営について研究・実践を進めている。

宗野 創

(そうの はじめ)

1993年1月5日

研究・実践テーマ

ユニバーサルな  
社会保障制度の探求

神奈川県横浜市出身。早稲田大学政治経済学部卒業後、三井住友銀行に入行。個人資産相談業務や中小企業融資営業を経験する中で、家計の安定こそが平和国家の基盤であると実感。誰もが人生を自由に選択できるユニバーサルな社会保障制度の実現を目指す。

富安 祐輔

(とみやす ゆうすけ)

1990年12月19日

研究・実践テーマ

子どもの笑顔と  
希望があふれる社会の実現

福岡県福岡市出身。九州大学法医学部卒業後、福岡県庁に入庁。子どもの貧困対策を推進する事業の企画立案担当や、児童相談所の児童福祉司を経て入塾。児童虐待を未然に防ぎ、すべての子どもたちが笑顔で希望を持って成長できる社会の実現を目指す。

中田 智博

(なかだ ともひろ)

1997年8月19日

研究・実践テーマ

潜在的イノベーション人材の活躍  
を通じた「青春国家日本」の実現

神奈川県出身。早稲田大学政治経済学部卒業。在学中、スタートアップでマネージャーを、社団法人でCOOを務める。入塾後、松下塾主の経営理念研究や様々な現場研修に取り組むなかで、総合芸術経営に関心をもち実業家を志向。経営学及びコミュニケーション・デザインを中心に実業家としての研修を行う。

## 42期生



伊崎 大義

(いざき たいぎ)

1995年2月16日

研究・実践テーマ

自立した地方政府による  
多極分散型国家の実現

福岡県北九州市出身。大阪大学人間  
科学部卒業後、関西電力で燃料貿易、  
オトバンクでITビジネスに携わった  
のち入塾。この国の閉塞感を打ち破る  
には、自立した地方政府による多様  
なソリューションの追求こそが重要  
であると考え、地方分権と国内外  
の都市間連携を通じた日本の繁栄  
を目指す。



市川 広大

(いちかわ こうだい)

1995年5月22日

研究・実践テーマ

普遍的価値を共有する国々との  
連携による豊かな国際社会の実現

埼玉県熊谷市出身。慶應義塾大学法  
学部卒業後、同大学院及び東京大学  
大学院修士課程を修了。權威主義國  
の國際社會における影響力の拡大、  
領土的野心、人權侵害に危機感を覚  
える。普遍的価値を共有する国々との  
連携を通じた総合安全保障の実現  
と、日本をはじめとした自由主義國の  
プレゼンスの拡大を目指す。



大瀧 真生子

(おおたき まおこ)

1997年10月6日

研究・実践テーマ

スポーツ界改革を通じた  
多様性のある社会の構築

茨城県常陸大宮市出身。早稲田大学  
教育学部地理歴史専修卒業。幼少  
期からスポーツと関わる中で、多様  
性を目指す社会とスポーツ界の現実  
との乖離に違和感を抱く。アスリート  
教育を基盤に、スポーツ界の改革と  
日本社会のあり方を探求する。



日野原 由佳

(ひのはら ゆか)

1988年3月28日

研究・実践テーマ

多様性や包摶性を尊重した  
共生社会の実現

群馬県出身。早稲田大学大学院政治  
学研究科修了。ルネサスエレクトロ  
ニクスで勤務後、NGO、国連職員と  
して中東及びアフリカにて人道・開発  
支援に従事する中で、社会に不平等  
や差別があることに問題意識をもつ。  
多様性や包摶性を尊重した共生  
社会の実現を目指す。



松田 彩

(まつだ あや)

1988年7月8日

研究・実践テーマ

米中関係を踏まえた  
総合安全保障の探求

広島県広島市出身。オハイオ州立大学  
国際関係学部卒業後、北京大学大学  
院哲学部中国哲学専攻。大学講師を  
経て入塾。世界情勢の変化に対応  
できるよう、日本を牽引する為政者  
になるべく研鑽を積んでいる。主に、  
第一次産業の強化、宇宙産業事業の  
創出、領土・領海・領空の防衛に注力  
し、世界平和に寄与する。



水上 裕貴

(みずかみ ゆうき)

1994年11月14日

研究・実践テーマ

哲学を媒介とした  
幸福度向上方略の探究

北海道札幌市出身。東京学芸大学  
大学院教育学研究科修了。大学院  
在学中、ドイツ・ハイデルベルク大学  
哲学部への留学を契機に、日本は幸  
せな国なのか、そもそも幸せとは何  
か、という哲学的問いを持つ。哲学を  
媒介とした幸福度向上のための実践  
的方略を、学校教育や哲学カフェ等  
の現場から探究している。

## 43期生



赤木 亮太

(あかぎ りょうた)

1994年4月30日

研究・実践テーマ

複合的な教育課題を是正する  
国家ビジョンの構築と実現

愛知県日進市出身。慶應義塾大学大学院政策・メディア研究科修了。福岡県の公立小学校に勤務する中で、教育課題を是正するには、福祉や経済等の他分野の視点も同時に捉えることが重要だと実感。学校教育改革や格差是正、地域コミュニティ再生を軸に探し、複合的な領域に共通する国家のビジョンを構築するため入塾。



清水紀沙

(しみず きさ)

1999年1月29日

研究・実践テーマ

誰もが自尊心をもち、生き生きと  
幸福を追求できる社会の実現

宮崎県出身。近畿大学法学部法律学科卒業。海外生活で外国人が自らのルーツや国を愛する姿を目の当たりにし衝撃を受ける。日本が国際社会で生き残る道筋を示すことで将来への不安を取り除き、誰もが自尊心を育み、生き生きと幸福を追求できる社会の実現を目指すため入塾。



出口 洋希

(いでぐち ひろき)

1997年9月3日

研究・実践テーマ

現代における  
幸せな家族観の探究

滋賀県大津市出身。同志社大学法学部卒業。大学在学中に塾講師として出会った高校生や自身の経験から、日本社会における若者の進路と家族の関係に危機感を抱く。進路のみならず多様な視点から、現代における幸せな家族観の探究をするため入塾。



平岡 静香

(ひらおか しづか)

1985年11月17日

研究・実践テーマ

すべてのいのちの幸せを願う  
社会の実現と若者の育成

宮城県出身。上智大学文学部史学科卒業後、教員として中高一貫校に勤務。フィリピン留学中、社会課題を解決する政治や教育の重要性を実感。学校現場において、東日本大震災やパンデミックを子どもたちと共に経験し、すべてのいのちが大切にされる社会の実現を目指すため入塾。



三藤 壮史

(みとう まさし)

1997年2月12日

研究・実践テーマ

多様化する家族観を包摂する  
社会の探究

広島県福山市出身。国際基督教大学教養学部アーツ・サイエンス学科卒業。自らの家庭環境と大学における分野横断的な学びを通じて、人生の様々な局面で家族に頼らざるを得ない日本社会のあり方に危機感を覚える。多様な家族観を包摂する社会づくりを探究するため入塾。



渡邊 真太朗

(わたなべ しんたろう)

1992年11月8日

研究・実践テーマ

首都機能等移転を含めた  
地方分散社会の実現

栃木県那須烏山市出身。学習院大学経済学部卒業。足利銀行勤務を経て、栃木県知事後援会事務所入所。人口減少が進む都市部と地方の格差は正や地方創生の必要性を強く感じ、東京一極集中の解決と首都機能等移転を含めた地方分散社会の実現を目指すため入塾。

# 募集・採用

## 未来のリーダーを発掘する独自の選考

松下政経塾は、「理想社会のビジョンをつくり、その実践者になる」ことに共鳴する、志をもつ未来のリーダーたちを幅広く受け入れています。合宿選考を含む独自の選考プロセスで、本気の挑戦に応えます。

### 選考概要

第44期生(2023年4月入塾)の入塾選考は選考基準が異なる「新卒選考」と「社会人選考」に分け、年に2回(前期・後期)行います。1次選考はエントリーシートを基に書類選考を実施します。2次選考は塾に宿泊し、実際の生活を体験しながらの合宿選考です。伝統の早朝研修や応募者同士の交流会もあります。3次選考は有識者や役員による面接を行います。

新卒選考 対象:2023年3月大学・大学院卒業(修了)見込みの方 | 社会人選考 対象:22歳から38歳の方(2023年4月1日時点)

### 募集・選考の流れ

詳細は松下政経塾ホームページ <https://www.mskj.or.jp/entry/> にてご確認ください。▶  
WEB上で説明会の詳細もご覧いただけます。



#### エントリー

WEBエントリー後、選考要領説明会(オンライン)を実施します。

#### 1次選考

一次選考書類を提出後、書類選考を実施します。

#### 2次選考

一泊二日の合宿選考。面接・筆記試験等を実施します。

#### 3次選考

最終選考。松下政経塾役員や有識者による個人面接を実施します。

※社会状況に応じて、選考日程等が変更になる場合がございます。

### 松下政経塾紹介イベントの開催

松下政経塾では、募集(エントリー)期間に茅ヶ崎・東京・大阪等各地での説明会、並びにオンライン説明会を開催しています。また、松下政経塾を知っていただくためのイベントやインターンプログラムを一年を通じて実施しています。



### 入塾説明会ライブラリー



<https://www.mskj.or.jp/webinfo/>

松下政経塾の入塾説明会資料を集約したライブラリーをWEB上に設けています。松下政経塾紹介映像、現役塾生インタビュー、卒塾生の活動動画等をご覧いただけます。

# 社会連携活動

## 松下幸之助の思い、ビジョンを広く社会と共有する

松下政経塾では、松下幸之助塾主の描いたビジョンを広く社会と共有するために、社会連携活動を推進しています。

社会を構成するのは私たち一人一人であり、社会づくりは「みんなで、一緒に」取り組んでいく必要があります。

そのためにも、私たちの社会はどうあるべきかを深く考え、対話し、行動していく機会を設けることが重要です。

そこで、塾主の描いたビジョンを拠り所に、より多くの方々が社会づくりについて考え、実践へつなげる場づくりを着想しました。

松下幸之助杯スピーチコンテストや公開講座など、様々な切り口で各種プログラムを展開しています。

### 公開講座

「開かれた松下政経塾」を目指し、地域の方や若者向けに、様々な公開講座を実施しています。



### 松下幸之助杯スピーチコンテスト

2030年の社会のビジョンを描きSDGsに取り組む若者を応援するスピーチコンテストを開催しています。



### スタディプログラム

大学生・院生を対象に、各界リーダーからの講義や各国外交官との交流を実施し、「日本の針路」をテーマに討議を重ねるプログラムです。



### 講演

松下幸之助塾主の思いや松下政経塾の建塾理念を広く深くご理解いただくために、講演活動を行っています。



### 松下幸之助塾主の講座に基づく書籍



「松下幸之助が考えた国のかたち」(PHP刊)



「リーダーになる人に  
知っておいてほしいこと」  
(PHP刊)



「リーダーになる人に  
知っておいてほしいこと II」  
(PHP刊)



「君に志はあるか」  
(PHP刊)



「リーダーを志す君へ」  
(PHP刊)

FOUNDER

△松下政経塾塾主△

# 松下幸之助



## 略歴

パナソニック(旧松下電器産業)グループ創業者、PHP研究所創設者。  
明治27(1894)年、和歌山県に生まれる。  
9歳で単身大阪に出、火鉢店、自転車店に奉公ののち、大阪電灯(現関西電力)に勤務。  
大正7(1918)年、23歳で松下電気器具製作所(昭和10年、株式会社組織に改め松下電器産業に改称)を創業。  
昭和21(1946)年には、「Peace and Happiness through Prosperity=繁栄によって平和と幸福を」のスローガンを掲げてPHP研究所を創設。  
昭和54(1979)年、21世紀を担う指導者の育成を目的に、松下政経塾を設立。初代塾長として舵を取り、九十四歳で永眠。松下政経塾では、塾主と呼ばれる。

## 松下幸之助塾主の思想哲学を学ぶ



「道をひらく」(PHP刊)

松下政経塾は、松下幸之助記念志財団により運営されています。  
当財団は、自修自得・現地現場の研修を通じてリーダーを育成する「松下政経塾」と、  
リーダーの国際的研究活動等を支援する「助成・顕彰プログラム」という2つのイニシアチブを展開し、  
松下幸之助の描いた理想社会が力強く具現化されることを目指しています。

### 公益財団法人松下幸之助記念志財団 松下政経塾 概要

所 在 地	〒253-0033 神奈川県茅ヶ崎市汐見台5番25号
設 立 日	昭和54(1979)年6月21日
開 塾	昭和55(1980)年4月1日
目 的	21世紀理想の日本を実現するための諸理念・方策の探求と、それを推進していく人材の育成
塾 長	遠山 敬史
施 設	土地／6353坪(2万平米) 建物／2000坪(6700平米)
塾 生 数	18人
研 修 年 限	原則4年
卒 塾 生 数	294人(男性254人／女性40人)

### 公益財団法人松下幸之助記念志財団 役員

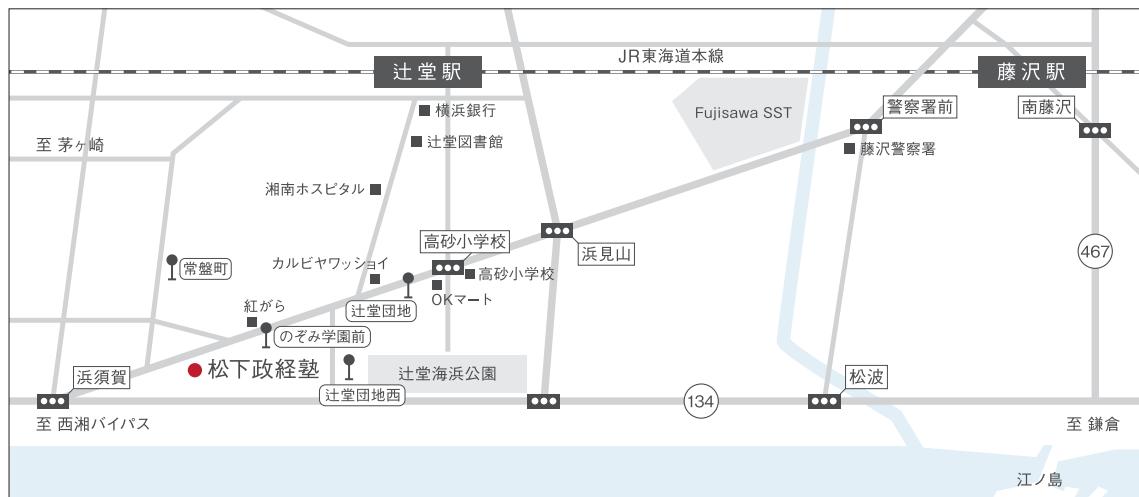
理 事 長 〈代表理事〉	松下 正幸	パナソニック ホールディングス株式会社 特別顧問
副 理 事 長 〈代表理事〉	遠山 敬史	公益財団法人松下幸之助記念志財団 松下政経塾 塾長
専 務 理 事	神藏 孝之 松岡 浩晃	イマジニア株式会社 取締役会長 ファウンダー 公益財団法人松下幸之助記念志財団 助成・顕彰プログラム担当
理 事	逢沢 一郎 井上 章一 杉島 敬志 田中 耕司 戸部 博 野田 佳彦 速水 洋子 箕浦 輝幸 渡辺 利夫 金子 一也	衆議院議員 国際日本文化研究センター 所長 京都大学 名誉教授／放送大学京都学習センター 所長・特任教授 京都大学 名誉教授 京都府立植物園 園長／京都大学 名誉教授 衆議院議員 京都大学 東南アジア地域研究研究所 教授 トヨタ紡織株式会社 元相談役 拓殖大学 顧問 公益財団法人松下幸之助記念志財団 松下政経塾 塾頭
監 事	川上 徹也	パナソニック ホールディングス株式会社 客員
評 議 員	伊藤 達也 猪木 武徳 加賀美 幸子 加藤 剛 古賀 伸明 小長 啓一 小林 節 近藤 大博 佐伯 聰士 角 和夫 副島 題子 曾根 泰教 土谷 準明 鳥居 かほり 中村 桂子 永久 寿夫 奈良 俊幸 西田 治文 平野 俊夫 松沢 成文 宮本 又郎	衆議院議員 国際日本文化研究センター 名誉教授／大阪大学 名誉教授 千葉市男女共同参画センター 名誉館長 京都大学 名誉教授 公益財団法人連合総合生活開発研究所(連合総研) 理事長 元通産省 事務次官／一般財団法人産業人材研修センター 理事長／島田法律事務所 客員弁護士 慶應義塾大学 名誉教授／弁護士 日本国際情報学会 会長 読売新聞東京本社 論説副委員長 阪急阪神ホールディングス株式会社 代表取締役会長 グループCEO 熊本大学大学院 先端科学研究院 教授 慶應義塾大学 名誉教授 公益財団法人松下幸之助記念志財団 松下政経塾 元副塾頭 株式会社矢島聰子事務所所属 女優 JT生命誌研究館 名誉館長 名古屋商科大学経済学部 教授 前福井県越前市長 中央大学理学部 教授 量子科学技術研究開発機構 理事長 前神奈川県知事／前参議院議員 大阪大学 名誉教授

(敬称略 50音順 2022年4月1日現在)

## アクセス

### 松下政経塾 住所

〒253-0033 神奈川県茅ヶ崎市汐見台5-25 TEL. 0467-85-5811



### JR東海道本線 辻堂駅南口より

#### バス利用

〈辻堂駅南口バス停〉※乗車 約10分

- ・のりば1「平和学園循環」又は「茅ヶ崎駅南口行」乗車 → 「のぞみ学園前」下車、徒歩3分
- ・のりば2「辻堂団地行」乗車 → 「辻堂団地西」下車、徒歩4分
- ・のりば3「茅ヶ崎駅南口行」(浜竹・平和町経由)乗車 → 「常盤町」下車、徒歩5分

### JR東海道本線・小田急江ノ島線 藤沢駅北口より

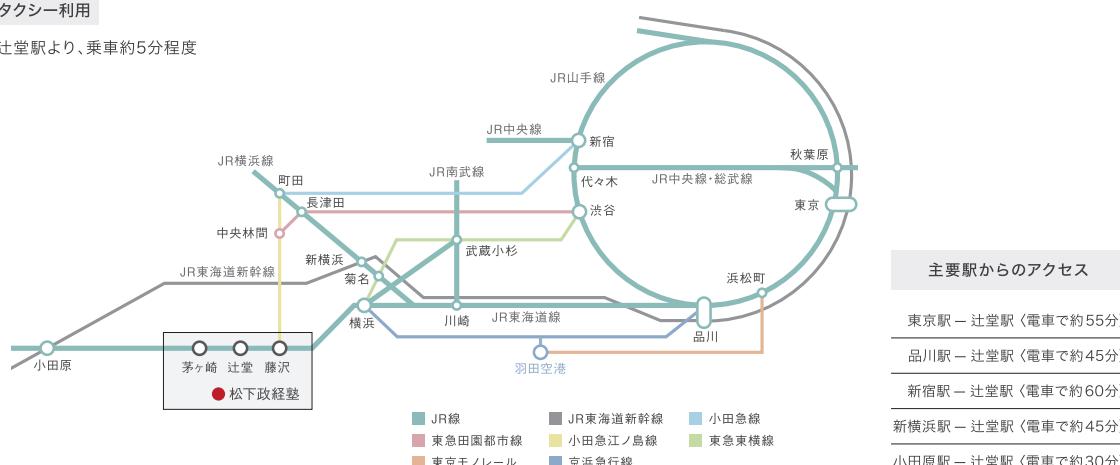
#### バス利用

〈藤沢駅北口バス停〉※乗車 約20分

- ・のりば2「辻堂団地行」乗車 → 「辻堂団地」下車、徒歩5分

#### タクシー利用

辻堂駅より、乗車約5分程度



## お問い合わせ

入塾に関するお問い合わせ

boshu@mskj.or.jp

一般事項に関するお問い合わせ

admin@mskj.or.jp